

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 年度配分 研究成果の概要

研究名	ピアノ製造アーカイブに関する研究				
特別研究費 配分類	文化・芸術研究センター長特別研究費				500 千円
特別研究費 執行額	92 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究の 場合の分担
	企画室	(文化・芸術 研究センター)	調査員	富田 晋司	調査研究全般取りま とめ
共同 研究 者			名誉教授	平野 昭	研究関連情報収集 「ピアノ史」を踏まえて の助言
発表の方法 (予定で可)	1 紀 要		号 数	第 号 ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:「バンバン!ケンバン♪はま まつ」での講演にて中間報告を行う		発表日 (発表 予定日)	平成24年10月20日	

注:配分を受けた翌年度の5月末までに提出

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成23年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	ピアノ製造アーカイブに関する研究				
配分を受けた特別研究費	文化・芸術研究センター長 特別研究費				500千円
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究者
	企画室	(文化・芸術研究センター)	調査員	富田 晋司	他 1 名
発表の方法	1 紀要 名称:		号数	第 号 ( 頁~ 頁) ( 年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:「バンバン!ケンバン♪はままつ」での講演にて中間報告を行う		発表日	平成24年10月20日	

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

(研究の目的等)

明治中期以降浜松地域に発達した楽器産業の歴史、特にピアノ製造に焦点を当て、国産ピアノ製造史における浜松地域の位置づけを明らかにする。

高度経済成長期にはヤマハ、カワイの2大メーカーの他にも多くのピアノ製造業者が林立し様々なブランドで販売された。本研究では過去から現在に至る製造業者とピアノブランドの整理を行い、戦後昭和期の状況を知る関係者からのヒアリング等によって、2大メーカー以外のピアノ製造業の状況を明らかにする。

また現在も製造を継続しているメーカーがあれば直接取材によって、ピアノ製造業者とピアノに関わるデータを蓄積することを目的とする。

(研究の実施方法等)

1. 浜松の楽器産業に関わる先行研究の調査、資料収集
2. 文献資料に基づきピアノ製造業者およびピアノブランドに関わるデータの入力、整理
3. 整理されたデータをもとに、戦後昭和期の浜松のピアノ製造業の状況を知る関係者に対するヒアリング調査
4. 日本の国産ピアノ製造の歴史についての調査(資料調査、ヒアリング)

(得られた成果等)

1. 文献資料に基づくピアノ製造業者およびピアノブランドに関わるデータの入力、整理によって、約370におよぶ国産ブランドと製造業者の関係を整理することができた。また日本のピアノ製造における浜松地域の突出かつ特異な位置づけが明らかとなった。
2. ヒアリング調査によって、戦後昭和期の浜松におけるピアノ製造の状況が整理された。国産ピアノの製造は高度成長期に飛躍的な発展をとげたものの、1980年代から1990年代にかけて急速に縮小し、その過程で2大メーカーを除く中小のピアノ製造業者はほぼ全滅といってもいいほどの状況となり、現在もピアノを独自のブランドで作り続けている製造業者はほとんどないことも明らかとなった。

## 浜松のピアノ産業調査中間報告

静岡文化芸術大学 文化・芸術研究センター

20-Oct-2012

## 世界を席卷した日本のピアノ

1870～1980年の世界のピアノ生産台数(推定)

(単位:千台)

年	英	仏	独	米	日本	露	韓国
1870	25	21	15	24			
1890	50	20	70	72			
1910	75	25	120	370		10	
1930	50	20	20	120	2		
1935	55	20	4	61	4		
1960	19	2	26	160	48	88	6
1970	17	1	45	220	273	200	81
1980	16	3	59	248	374	166	

1960以降の独は東西合計

出所: The New Grove Dictionary of Musical Instruments  
(阿部1997)

## 浜松のピアノ生産台数

• 1950～1980(単位:台)

年	生産台数
1950	3,466
1955	9,873
1960	44,770
1965	145,832
1970	271,304
1975	318,423
1980	394,147

出所:『浜松市統計書』等  
阿部(1997)

## 浜松のピアノ産業史(明治～昭和戦前)

1900(明治33)日本楽器製造 ピアノ生産開始

1902(明治35)日楽 グランドピアノ生産

1921(大正10)日楽 西川楽器を合併

1926(大正15)日楽大争議

1927(昭和2)日楽 川上嘉一社長就任

河合楽器研究所 創業

河合アップライトピアノ第1号

1928(昭和3) 河合グランドピアノ第1号

1944・1945(昭和19・20)日楽、河合、空襲により工場焼失

## 明治～昭和戦前期のピアノ産業のポイント

### 1. 創業者の海外視察

山葉寅楠 1899 米国視察(文部省囑託)

河合小市 1921 米、英、仏、独、伊視察

(河合の視察は日楽の技術者時代)

### 2. 伝説の技術者

山葉寅楠、河合喜三郎、山葉直吉、河合小市

大橋幡岩 etc.

### 3. 経営の近代化とスピンアウト

## 戦後昭和期の浜松ピアノ産業史1

- 1950(昭和25)日楽 川上源一社長就任
- 1953(昭和28)日楽・川上 海外視察(独、仏)
- 1954(昭和29)ヤマハ音楽教室開設(銀座)
- 1955(昭和30)河合滋 社長就任
- 1956(昭和31)カワイ音楽教室開設
- 河合楽器株式買占め事件
- 1960(昭和35)河合 月掛予約制度スタート

## 戦後昭和期の浜松ピアノ産業史1

### “2大メーカー”の確立

1. 経営の近代化・合理化
  - 機械化・オートメーション生産
  - 一貫生産の大規模工場建設
2. 全国販売網の整備(特約店・直販店)
3. 2大メーカーによる激しい販売競争
4. ピアノ市場の拡大
  - ①教育現場への普及、音楽教室
  - ②雇用・賃金の安定・拡大、住宅の整備

## 戦後昭和期の浜松ピアノ産業史2

- 1950年代 新参ピアノメーカーの相次ぐ参入
- 1957年12月調査(日楽・河合除く)

地区	ピアノ製造所	ブランド数
浜松駅北部	7	10
駅南	10	19
駅東・天竜川	12	21
天竜川東	7	8
合計	36	58

## 中小ピアノメーカーの展開

1. 日楽・河合からのスピンアウト技術者
2. 比較的容易な参入(経営基盤弱く淘汰も多い)  
部品メーカーと楽器店の支援  
職人数人での操業が可能
3. 楽器店・販売店・調律師との提携  
販売サイド主導による低価格傾向
4. 中堅メーカー(従業員300人程度)  
東海楽器製造、アトラスピアノ製造、東洋ピアノ製造
5. 高品質志向メーカー 大橋ピアノ研究所

## ピアノ産業の成熟・縮小

- 浜松のピアノ生産台数1980～2010

年	生産台数	(単位:台)
1980	394,147	
1985	287,528	
1990	265,382	
1995	167,831	
2010	41,483	

出所:『浜松市統計書』等

阿部(1977)

静岡県楽器製造協会



## 苦闘の1980年代

- ピアノ需要のピークは1980(昭和55)

①市場の成熟

世帯普及率は伸び悩みから頭打ちへ

②電子楽器の発展、普及

③少子化

## 中小ピアノメーカーの消滅

<中小メーカーの倒産・廃業等>

1980(昭和55)ルビンシュタイン

1981(昭和56)ローゼンケーニッヒ

1983(昭和58)ツルタ、トニカ

1985(昭和60)東海楽器製造

1986(昭和61)アトラス、東日本、大成、伊藤  
(東京ピアノ社倒産)

1987(昭和62)シュバイツァ、フローラ

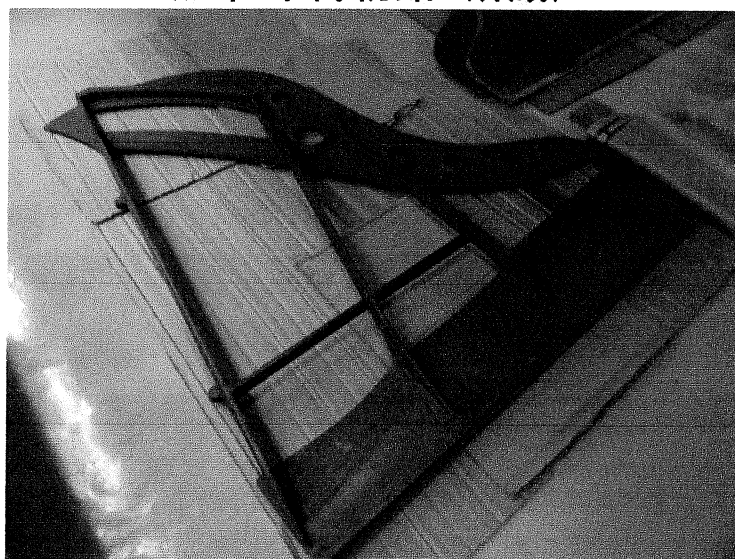
## 産業遺産としてのピアノ工房

<大橋ピアノ研究所>

- 大橋幡岩(1896～1980)  
1909(明治42)日本楽器入社、山葉直吉に師事  
1927(昭和2)日楽ピアノ部次席  
1928(昭和3)日楽辞職、山葉ピアノ研究所長  
1929(昭和4)日楽技師嘱託  
1937(昭和12)日楽退職  
1948(昭和23)浜松楽器工業創立「ディアパソン」  
1958(昭和33)大橋ピアノ研究所創設  
1980(昭和55)逝去  
1991(平成3) 大橋巖 逝去  
1995(平成7) 大橋ピアノ研究所自主廃業

## 大橋ピアノ研究所 資料

(浜松市博物館 所蔵)





静岡県のピアノ製造所とブランド(除:カワイ・ヤマハ) 1957年12月調査

No.	地区	ピアノ製造所	ブランド数	ブランド			
1	浜松駅北部	東洋ピアノ製造	1	アポロ			
2	浜松駅北部	浜松楽器工業	1	ディアパソン			
3	浜松駅北部	タイガー楽器製造	2	タイガー	ゼンオン		
4	浜松駅北部	沢根ピアノ製作所	1	モナーク			
5	浜松駅北部	小野ピアノ製作所	3	スピルマン	バックハウス	シトラウス	
6	浜松駅北部	松山ピアノ製作所	1	ナオンジム			
7	浜松駅北部	精宏舎ピアノ製作所	1	セイコウ			
8	浜松駅南	大和楽器製造	2	レスター	ヤマト		
9	浜松駅南	平和楽器製造	1	スタインバッハ			
10	浜松駅南	遠州ピアノ製造	2	ラ・ルーナ	スタインマイヤー		
11	浜松駅南	大洋楽器製造	2	ブルックナー	イーグリーク		
12	浜松駅南	東亜楽器製造	1	ドルファー			
13	浜松駅南	明音楽器工芸社	1	フーゲル			
14	浜松駅南	日米楽器工業所	3	スタンダード	ノーベル	アトラス	
15	浜松駅南	光輪楽器製作所	1	ブルーゲル			
16	浜松駅南	坂本ピアノ製作所	1	ブルーゲル			
17	浜松駅南	日産楽器製造	5	ウェルパー	スタインバーグ	スタインメル	ケー・ヘルマン
18	浜松駅東・天竜川	天竜楽器製造	3	エテルナ	カイザー	ローズ	タカラヤマト
19	浜松駅東・天竜川	ドレスデンピアノ	2	ラ・ザール	ウィルヘルム		
20	浜松駅東・天竜川	中部楽器製造	3	フローベル	エマーソン	エレガント	
21	浜松駅東・天竜川	三陽楽器製作所	1	ケーニツヒ			
22	浜松駅東・天竜川	スワン楽器製造	1	ガーシュイン			
23	浜松駅東・天竜川	三葉楽器製造	1	スタインリッヒ			
24	浜松駅東・天竜川	富士楽器製造	1	ベルトーン			
25	浜松駅東・天竜川	浜名楽器製造	3	パーベル	ロードリッヒ	フリードリッヒ	
26	浜松駅東・天竜川	クロイツェルピアノ	2	クロイツェル	ムーンライト		
27	浜松駅東・天竜川	ベルリンピアノ製作所	1	ローゼン			
28	浜松駅東・天竜川	興和楽器製作所	2	クリーベル	ホフマン		
29	浜松駅東・天竜川	フローラピアノ製作所	1	セレザーク			
30	天竜川東	ヘルマンピアノ製造	1	ヘルマン			
31	天竜川東	ワールドピース製作所	1	ワールドピース			
32	天竜川東	斎藤ピアノ製作所	1	ルビンシュタイン			
33	天竜川東	日本ピアノ製造	2	シュミット	オノ		
34	天竜川東	山下ピアノ製作所	1	モンソン			
35	天竜川東	久保田楽器製造	1	ジュリアス			
36	天竜川東	静岡楽器製造	1	フリードリッヒ			
		合計	58				

大野木吉兵衛「浜松における洋楽器産業」、『遠州産業文化史』, 1977より

## ピアノアトラス データ比較

ピアノ製造事業者	国	創業年	初年	最新年	最新年No.	年平均生産
ベヒシュタイン	ドイツ	1853	1859	1975	168,800	1,455
グロトリアン	ドイツ	1835	1864	1975	114,268	1,029
イバツハ	ドイツ	1794	1820	1977	129,601	825
ブルツツナー	ドイツ	1853	1853	1977	143,500	1,157
ブロードウッド	英国	1795	1932	1977	68,341	1,519
エラル	フランス	1780	1800	1977	135,400	765
ガボー	フランス	1847	1855	1977	119,800	982
プレイエル	フランス	1807	1805	1977	219,800	1,278
ベーゼンドルファー	オーストリア	1828	1828	1976	31,109	210
ボールドウィン	米国	1862	1890	1976	213,470	2,482
チックリング	米国	1852	1823	1977	240,626	1,563
クナーベ	米国	1837	1849	1977	188,635	1,474
メーソン&ハムリン	米国	1854	1885	1977	81,100	882
スタインウェイ	米国	1853	1853	1979	463,000	3,675
ヤマハ	日本	1887	1917	1980	3,210,000	50,952
カワイ	日本	1927	1951	1981	1,200,000	40,000
アポロ	日本	1948	1948	1980	135,000	4,219

今泉清暉『楽器の事典 ピアノ』東京音楽社、1982